

權實みだりがはしく、佛の本懷を失て、爾前得道の者のためには法華經無用也と云へる事を、能能慎べし恐べし。古の徳一大師と云し人、此義を人にも教へ、我心にも存じて、さて法華經を讀給しを、傳教大師此人を破し給ふ言に、雖讀法華經、還死法華心と責給しかば、徳一大師は舌八にさけて失給ひき。問云、天台釋の中に菩薩處處得入と云文は、法華經は但二乗の爲にして菩薩の爲ならず、菩薩は爾前の經の中にしても得道なると見えたり。若爾者、未顯眞實も正直捨方便等も、總じて法華經八卷の内、皆以て二乗の爲にして、菩薩は一人も有まじきと意うべき歟如何。答云、法華經は但二乗の爲にして菩薩の爲ならずと云事は、天台より已前唐土に南三北七と申て十人の學匠の義也。天台は其義を破し失て今は弘まらず。若菩薩なしと云はば、菩薩聞是法疑網皆已除と云る。豈は菩薩の得益なしと云はんや。それに尙鈍根の菩薩は二乗とつれ(連)て得益あれども、利根の菩薩は爾前の經にて得益すと云はば、利根鈍根等雨法雨と説き、一切菩薩阿耨多羅三藐三菩提皆屬此經と説くは何に。此等の文の心は、利根にてもあれ鈍根にてもあれ、持戒にてもあれ破戒にてもあれ、貴もあれ賤もあれ、一切の菩薩凡夫二乗は法華經にて成佛得道なるべしと云文なるをや。又

① たり=て候(候) ② [以て]-一(一) ③ [已]-一(一) ④ [唐土]-一(一) ⑤ [豈]-一(一) ⑥ [それに]-一(一) ⑦ [利...云はば] 19 字一(一) ⑧ [は何に]-一(一)

法華得益の菩薩は皆鈍根也と云はば普賢・文殊・彌勒・藥王等の八萬の菩薩をば鈍根也と云べき歟。其外に爾前の經にて得道する利根の菩薩と云は何様なる菩薩ぞや。抑爾前に菩薩の得道と云は法華經の如得道にて候歟。其ならば法華經の得道にて、爾前の得分にあらず。又法華經より外の得道ならば、已今當の中には何れぞや。いかさまにも法華經ならぬ得道は當分の得道にて眞實の得道にあらず。故に無量義經には是故衆生、得道差別と云ひ、又終不得成、無上菩提と云へり。文の心は爾前の經々には得道の差別を説と云へども、終に無上菩提の法華經の得道はなしとこそ佛は説給て候へ。問云、當時は釋尊入滅の後今に二千二百三十餘年也。一切經の中に何の經が時に相應して弘まり利生も有べき耶。大集經の五箇の五百歲の中の第五の五百歲に當時はあたり。其第五の五百歲をば鬪諍堅固・白法隱没と云て、人の心たけく腹あしく、貪欲嗔恚強盛なれば軍合戦のみ盛にして、佛法の中に先々弘りし所の眞言・禪宗念佛・持戒等の白法は隱没すべしと佛説給へり。第一の五百歲・第二の五百歲・第三の五百歲・第四の五百歲を見に、成佛の道こそ未顯眞實なれ、世間の事は佛の御言一分も違はず。以是思之當時の鬪諍堅固白法隱没の金言も違事あらじ。若爾者

①「普...王」8字＝文殊彌勒普賢藥王
 ②の如＝程の
 ③～④〔經〕一
 ⑤〔又〕一
 ⑥〔經〕一
 ⑦道＝益
 ⑧〔當時は〕一
 ⑨〔持〕一
 ⑩～⑪〔の五百歲〕一
 ⑫〔法〕一